

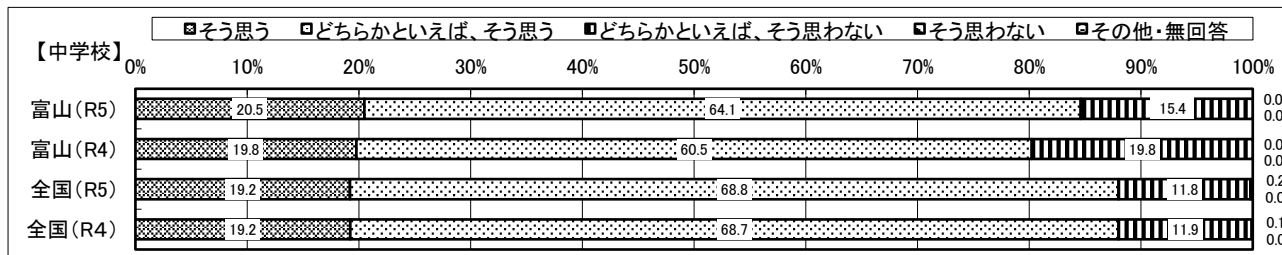
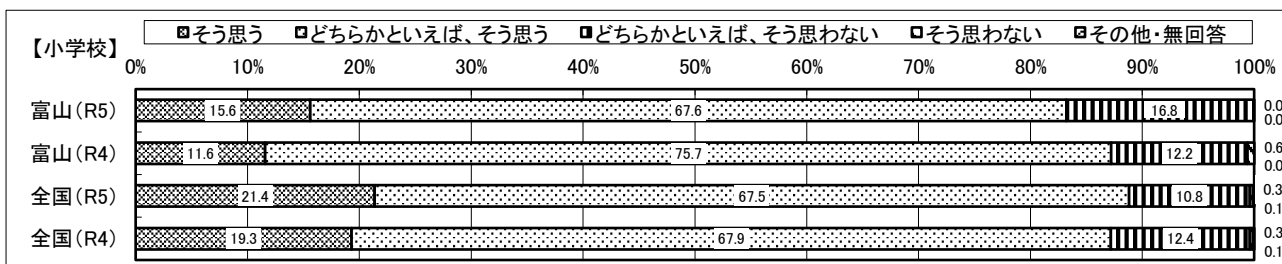
V 学校質問紙調査結果の概要と分析

1 主体的・対話的で深い学び、問題発見・解決能力の育成

(1) 調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか（質問小中 26）

・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、小学校は、令和4年度と比べて4.1ポイント低く、全国と比べても5.7ポイント低い。中学校は、令和4年度と比べて4.3ポイント高く、全国と比べて3.4ポイント低い。

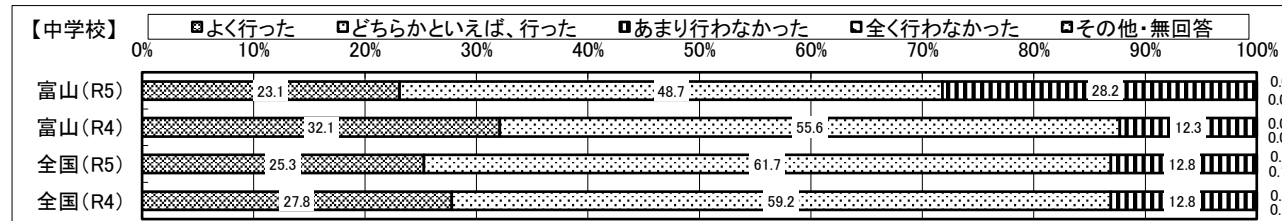
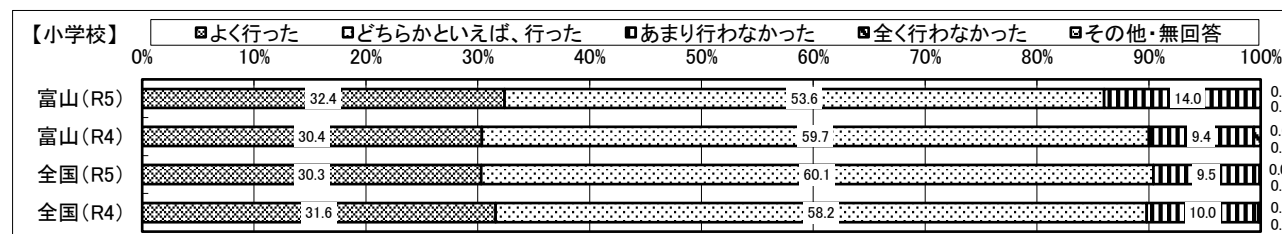
◎児童生徒が主体的に学習を進めることができるよう、単元構想や学習環境を工夫し、問題（課題）意識や学習意欲を高めることを大切にする。また、自分に合った学び方について考えながら学ぶことができるよう、活動の手順等を分かりやすく示し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにしたり、情報を収集・選択し考えをもたせる工夫をしたりする必要がある。



(2) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか（質問小中 33）

・「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合は、小学校は、令和4年度と比べて4.1ポイント低く、全国と比べても4.4ポイント低い。中学校は、令和4年度と比べて15.9ポイント低く、全国と比べても15.2ポイント低い。

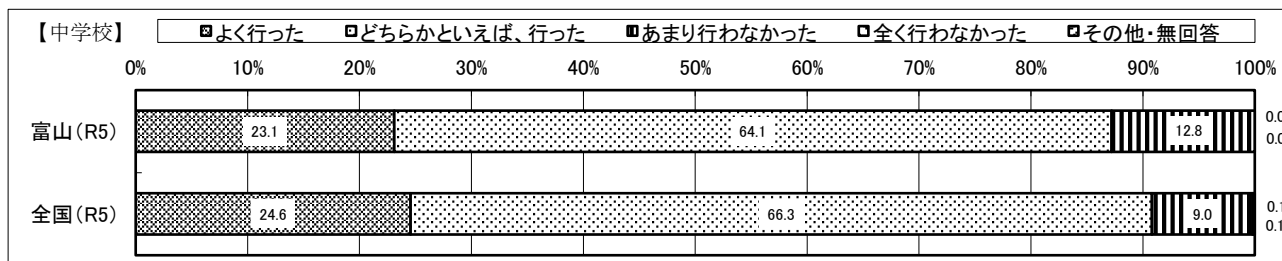
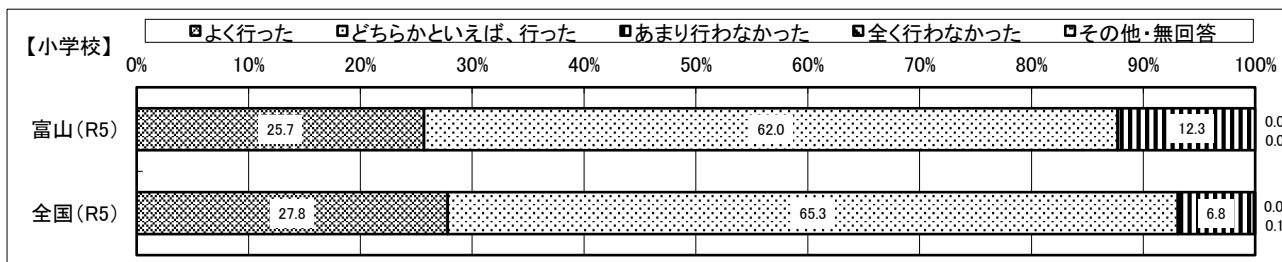
◎習得した知識及び技能を活用する問題解決的な学習過程を重視した取組を積極的に進めたり、課題解決の過程において、自己調整しながら学習を進めていく手立てを工夫したりすることが大切である。



(3) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか（質問小中 31）

・「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校は5.4ポイント低く、中学校は3.7ポイント低い。

◎子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自ら学習の状況を把握し、主体的に学習を調整していくことができるようにすることが重要である。

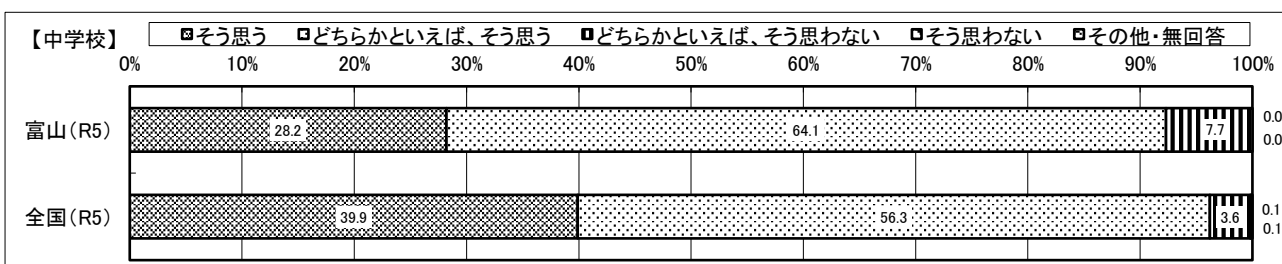
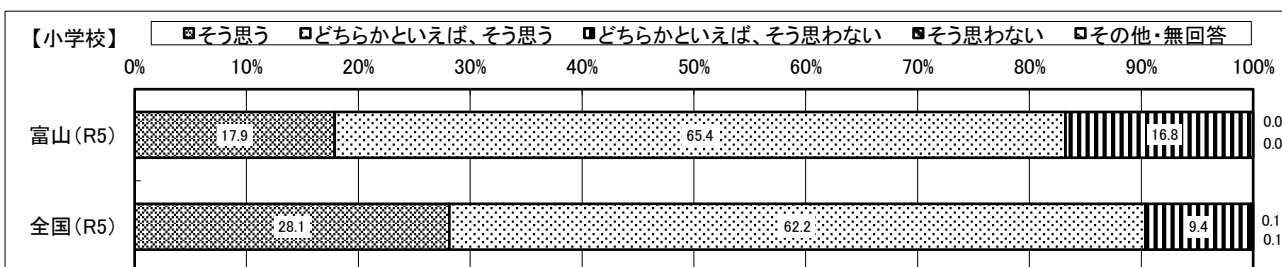


2 学習評価

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童（生徒）の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童（生徒）の学習改善に生かすことを心がけましたか（質問小中 41）

・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校は7.0ポイント低く、中学校は3.9ポイント低い。

◎児童生徒のよい点や進歩の状況等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすることが必要である。また、各教科の単元や題材等の内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り資質・能力の育成に生かすことが大切である。



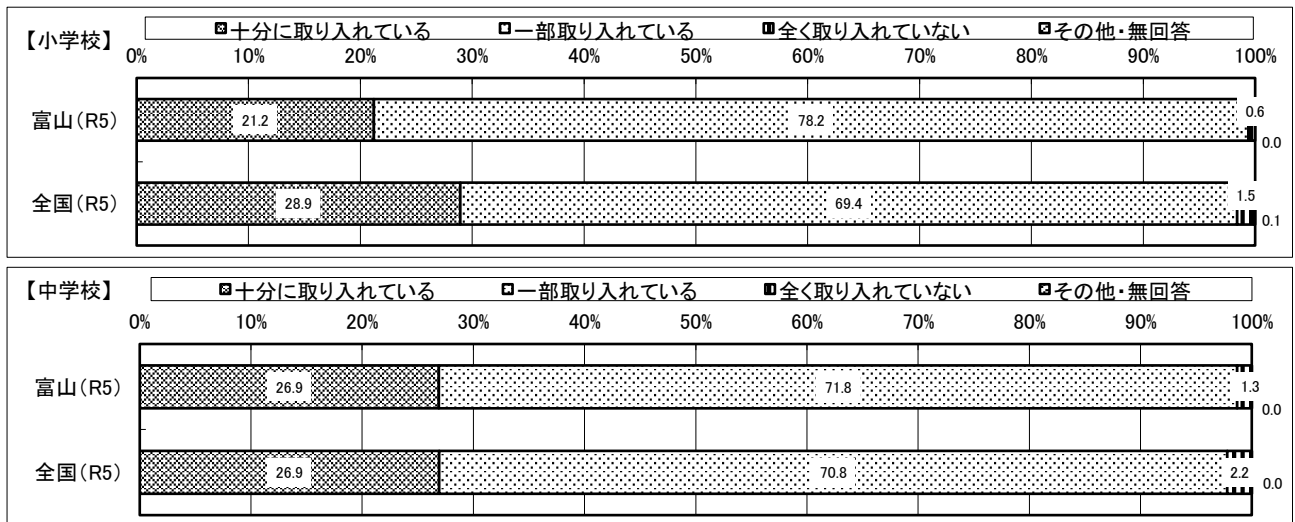
3 ICTの活用

ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか

（質問小中 16）

・「十分に取り入れている」「一部取り入れている」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校は1.1ポイント高く、中学校は1.0ポイント高い。

◎教員が限られた時間の中で、児童生徒に接する時間を十分に確保し、教育の質の維持向上を図るための具体的な解決策としてICTを活用した校務の効率化を図っていくことが大切である。



4 全国学力・学習状況調査等の活用

令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか（質問小 78 中 86）

・「よく行った」「行った」と回答した学校の割合は、小学校は、令和4年度と比べて2.1ポイント高く、全国と比べて1.6ポイント低い。中学校は、令和4年度と比べて10.9ポイント高く、全国と比べて同程度である。

◎結果を基に児童生徒の傾向や課題を把握したり、課題がみられた点を中心として校内研修を実施したりするなど、分析結果を有効に活用して児童生徒の学力や生活の改善、向上に努めていくことが大切である。

